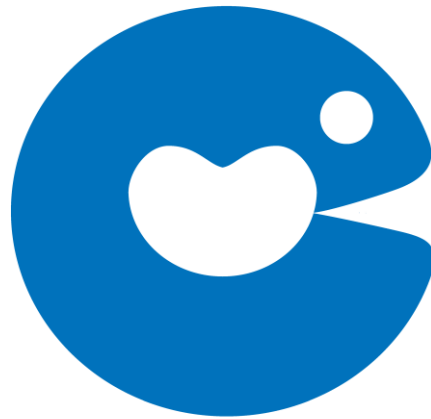


2021(令和3)年度

板橋区環境白書



ゼロカーボン
いたばし2050

Eat Carbon up to ZERO

2022(令和4)年3月



「エコポリス板橋」環境都市宣言

豊かな自然 澄んだ空気 静かでやすらぎのある暮らしは 私たちすべての区民の願いです

板橋区には みどりと水の豊かな自然やいきいきとしたまちなみなど 誇れる環境が残されています

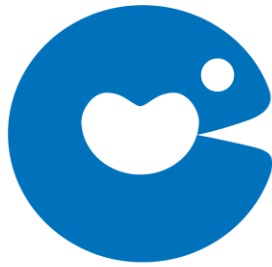
しかし 近年の盛んな都市生活は かつての良好な環境を徐々に失わせ さらに地球環境をも悪化させています

環境にやさしい暮らし方や事業活動を進めながら かけがえのない地球環境を子孫に引き継いでいくことが 私たちに課せられた責務です

私たち板橋区民は 真に快適な環境を創造するために 人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現を目指していくことをここに宣言します

- 1 私たちは 毎日の生活が地球環境に影響を及ぼしていることを認識し 地球市民として行動します
- 2 私たちは リサイクルの推進やエネルギーの節約に努め 地球の資源を大切にします
- 3 私たちは みどりや水 空気を大切に守り 様々な生物が共に生きていける環境づくりに努めます

平成五年四月一日



ゼロカーボン いたばし2050

Eat Carbon up to ZERO

近年、世界中で地球温暖化による異常気象が発生し、日本においても、これまで経験したことのない集中豪雨や強大化した台風などにより、甚大な被害が発生しています。このまま地球温暖化が進むと、その影響は様々な場面で顕在化し、ますます深刻化していくことが科学的に示されており、世界は今、気候非常事態に直面しています。

板橋区は、人と緑を未来へつなぐスマートシティを推進し、持続可能な社会を構築するため、気候非常事態を宣言し、あらゆる主体と連携・協働して社会全体の自主的な行動変容を促すとともに、エコロジー、エネルギー、エコノミーが調和した取組により、2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことをここに表明します。

- 1 エネルギーの効率的な利用をすすめ、再生可能エネルギーを最大限活用するまちづくりに貢献します。
- 2 環境配慮型製品やサービスの普及に努め、限りある資源の循環的な利用をすすめます。
- 3 持続可能な森林の整備と適正に管理された森林資源の活用を推進するとともに、緑と調和したまちづくりに取り組みます。
- 4 スマートインフラやデジタルトランスフォーメーションを積極的に活用し、地球環境を考えた持続可能な活動を実践します。
- 5 区民・事業者をはじめとしたオール板橋の協働により、気候変動の影響による被害を防止・軽減し、安心・安全な社会の構築に貢献します。

令和4年1月26日 板橋区長

坂本 健

はじめに

環境問題は人類のあらゆる社会活動から生じるものであり、環境・経済・社会の諸課題は密接に関係していると言われていています。これまでの経済発展・技術開発により、私たちには豊かで便利な生活がもたらされましたが、一方で大気・水質などの環境汚染、環境破壊などにより地球環境は悪化しました。

さらに、近年では地球温暖化の影響による気候災害の激甚化、海洋プラスチックごみ問題や生物多様性の損失など、環境問題はますます多岐にわたり、かつ深刻化してきています。

こうした中、我が国は、昨年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

板橋区においても、地球温暖化への強い危機感のもと、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指しています。

環境問題は、私たち一人ひとりが「自分事」として捉えて課題解決に向けて取り組むことが重要であり、これまで以上に、区民・事業者の皆様と区が、連携・協働して環境への取り組みを進めていくことが大切です。

これまでも区民・団体・事業者の皆様のご協力により、環境美化活動や環境保全活動など様々な活動が行われ、区内の環境改善に大きな成果をあげてきました。この環境白書は、板橋区の環境の現状と環境保全に関する施策の成果を報告する環境報告書です。併せて、区民の皆様とのパートナーシップの形成や区民一人ひとりの環境行動が推進されるような情報提供を目的にしています。

今後、より良い環境白書にするため、ご意見・ご要望等があれば、ぜひお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に区民の皆様には、板橋区の環境への取り組みに対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

目 次

第1部 環境基本計画の推進

- 1 「板橋区環境基本計画 2025」について 1
- 2 計画の推進と進行管理 3
- 3 板橋区の環境とSDGs 10

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

- 1 板橋区の現状 12
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進 13
 - 緑のカーテンの普及 13
 - クールビズ・ウォームビズ 14
 - 新エネルギー・省エネルギー機器の普及 14
 - 板橋区環境マネジメントシステム 15
 - 企業の環境マネジメントシステム構築・維持支援 18
 - 環境ビジネスの振興 19
 - (2) 建物や交通などインフラの脱炭素化の推進 21
 - エネルギーと環境に配慮した公共施設の整備 21
 - 板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針 . . . 21
 - LED街灯 22
 - 板橋区の自動車公害対策 22
 - 自転車通行空間整備事業 23
- 3 関連計画・事業
 - 板橋区地球温暖化対策実行計画 24
 - 他自治体・海外とのパートナーシップ（イクレイ） 24
 - 区におけるスマートシティへの取り組み 25

基本目標2 循環型社会の実現

- 1 板橋区の現状 28
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋かたつむり運動の推進 29
 - 板橋かたつむり運動 29
 - 区民・事業者とのパートナーシップ 30
 - 発生抑制 30
 - リサイクルプラザ 31
 - (2) 適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用 32
 - 清掃リサイクル事業の運営 32
 - ごみ出しルールの徹底 32
 - ごみ収集 33
 - 資源回収 35
 - ごみの処理 36
 - 区民・事業者主体のリサイクル 37
- 3 関連計画
 - 一般廃棄物処理基本計画 38

基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

- 1 板橋区の現状 40
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋区らしい良好な緑や水環境の保全・創出 42

民有地の緑の保全	42
緑化指導による緑化	43
自然との共生	44
水環境の保全と活用	45
公園	47
水質汚濁・湧水保全	48
(2) 自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受	50
緑を楽しむライフスタイル	50
農地の保全	50
熱帯環境植物館	51
自然・いきものさがし	52
エコポリスセンターかんきょう観察員	52
基本目標4 快適で健康に暮らせる生活環境の実現	
1 板橋区の現状	53
2 環境施策の活動状況	
(1) 大気汚染や騒音などのない生活環境の保全	54
大気環境の保全	54
アスベスト対策	57
放射線対策	58
騒音・振動対策	59
悪臭対策	63
土壌汚染対策	64
PCB 対策	64
有害化学物質対策	65
公害の未然防止	66
公害相談・苦情	69
環境調査に関する情報の発信	72
(2) 潤いのある景観や美しい街並みの保全	73
良好な都市景観	73
環境美化活動	74
基本目標5 「環境力」の高い人材の育成	
1 板橋区の現状	76
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成	78
エコポリスセンター	78
学校における環境教育	79
(2) わかりやすい環境情報の発信	82
環境情報の発信	82
環境イベントの開催	83
3 関連計画	
板橋区環境教育推進プラン 2025	83
基本目標6 パートナーシップが支えるまちの実現	
1 板橋区の現状	85
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり	87
エコポリス板橋クリーン条例	87
エコポリス板橋環境行動会議	87
エコポリス板橋環境活動大賞	88
区民団体における取り組み	89

参考資料

1 板橋区の概況・年表 90
 2 用語解説 95
 3 板橋区環境基本計画の変遷 99
 テレフォンガイド 100
 ご意見・ご要望をお寄せください（板橋区環境白書アンケート） 101

《板橋区環境白書の役割》

板橋区では、環境基本計画（第一次）が策定された 1999（平成 11）年度より、板橋区の環境全般についてまとめた「板橋区環境白書」を発行しています。環境白書では、環境基本計画に基づいて取り組まれた環境施策の進捗状況や区の環境の現状などを、計画の構成に沿って公表しています。

●本書第2部以降の構成●

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

1 板橋区の現状

■ 区内エネルギー消費量

指標名	基準年度 平成24年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 平成29年度	(参考) 達成率	進捗率	進捗度
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↓	22,901 TJ※2	21,862 TJ※3	173.9%	A A	100% 以上

区内エネルギー消費量は、電気やガスの使用、自動車の燃料であるガソリンによるものが大部分を占めていますが、東日本大震災以降、省エネ・節電対策や再生可能エネルギー（※P95）の普及が進んだことにより、基準年度と比較し順調に減少傾向で推移しているといえます。平成29年度の値が前年度と比較して増加しているのは、ガスの消費量の増加が要因として考えられます。

図2-1-1 区内エネルギー消費量の推移

第2部では、環境基本計画の基本目標ごとに、「1 板橋区の現状」と「2 環境施策の活動状況」を紹介しします。

「1 板橋区の現状」では、各基本目標の環境指標について紹介しします。

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

2 環境施策の活動状況

(1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進

■ 緑のカーテンの普及

緑のカーテン（※P97）は、窓の外に植物を寄せた自然のカーテンで、夏場の強い日差しを和らげ、冷房の使用を抑えることができて、省エネ効果があります。また、「緑のカーテンコンテスト」は、カーテンの育成に関する成功例や工夫などの情報共有を目的として実施しており、2019（令和元）年度より、未

就学児及び小学生を対象とした「キッズ絵日記部門」を新設しました。当年度は、個人部門10作品、団体部門3作品、公共施設部門

「2 環境施策の活動状況」では、各環境施策の取り組み概要を基本計画に沿って紹介しします。

各環境施策の活動指標に関連するSDGs アイコンを掲載しています。

（※POO）は、巻末の用語解説に掲載しています。
 （関連 POO）は、本書内で関連するページとなります。

緑のカーテン（板橋区役所本庁舎）

関連する活動指標

指標名	基準年度 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↓	161 施設	167 施設	後退

今後の対策：公共施設は数が限られているため、今後も大きな増減はありませんが、引き続き、施設側のニーズを把握し適切に育成支援（資材提供）していきます。

関連するホームページ（緑のカーテン） <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/curtain/index.html>

各環境施策に関連のある活動指標を、P7～P8 に掲載されている一覧表から抜粋して掲載しています。

各環境施策に関連のあるホームページアドレスを掲載しリンクを貼っています。詳細や最新情報はリンク先ホームページでご確認ください。

第1部 環境基本計画の推進

1 「板橋区環境基本計画」2025について

2009（平成21）3月に策定した板橋区環境基本計画（※P95）（第二次計画）以降、東日本大震災に伴うエネルギー需給のひっ迫による省エネルギーへの取り組みや再生可能エネルギー導入の加速化、人口減少社会への移行など、行政を取り巻く環境が大きく変化してきました。さらに、水素エネルギーの活用など新技術の発展、国際社会における新しい地球温暖化対策の枠組みへの合意など、状況は刻々と変化し続けています。

第二次計画の期間満了（2015（平成27）年度）にあたり、このような状況変化への対

応を図り、板橋区における環境保全の取り組みをより効果的に進めていくため、2016（平成28）～2025（令和7）年度を計画期間とする新たな環境基本計画として、「板橋区環境基本計画2025」を2016（平成28）年3月に策定しました。

本計画は、“環境像”＝概ね10年後のめざすべき環境の姿（図1-1-1）を設定するとともに、環境像のもと、個別分野ごとの環境課題に対応した6つの基本目標を設定しています（図1-1-2）。

人と緑を未来へつなぐスマートシティ“エコポリス板橋”

区の環境の将来像＝10年後の姿

武蔵野の面影を残す徳丸・赤塚の樹林地、広大な河川敷を有する荒川や美しい桜並木に彩られる石神井川など、緑と水やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、自然環境との共生が進んでいます。

またスマートシティに向けてICT（情報通信技術）（※P98）など最先端の技術が整備され、エネルギーを効率的に生みだし使用するライフスタイルが定着するとともに、水素や再生可能エネルギーなどの有効な資源の活用が進み、環境や防災面で持続可能な脱炭素社会※を実現するまちづくりが進んでいます。

さらには、区民一人ひとりや事業所のごみ減量・リサイクルなど環境に対する意識が高く、世代や職業、地域の枠を越えて、地域全体が連携して活動が進み、資源循環型社会が実現しています。

「人」

身近な環境を守り、育て、よりよい環境をつくっていくためには、人（個人、事業者、地域など）の意識を環境にシフトし、実際に行動に移していきながら、様々な人が協働して進めていくことがとても大切です。

「緑」

身近に緑や水などの豊かな自然があるまちづくりを進め、安心安全でやすらぎのある環境をつくっていくことが大切です。

「未来」

板橋の宝である子どもたちや豊かな暮らし、そして緑や水などの豊かな自然環境など、持続可能な発展を象徴しています。未来を担う子どもたちが環境と共存・調和しながら将来にわたり持続的に快適な都市環境を実現することが大切です。

「スマートシティ」

あらゆる社会インフラにICTなどの先端技術を活用してスマート化し、安心安全、便利で無駄のない暮らしや経済活動の実現をめざすかしこいまちづくりを進めていくことが大切です。

「エコポリス板橋」

1993（平成5）年4月、環境都市宣言を行い、人と環境が共生する都市“エコポリス板橋（※P95）”の実現をめざすまちづくりを進めています。

図1-1-1 「板橋区環境基本計画2025」が掲げる環境像

※ 「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会（※P96）」へと変更されたことに伴い、「低炭素社会」は「脱炭素社会」と読み替えることとします。

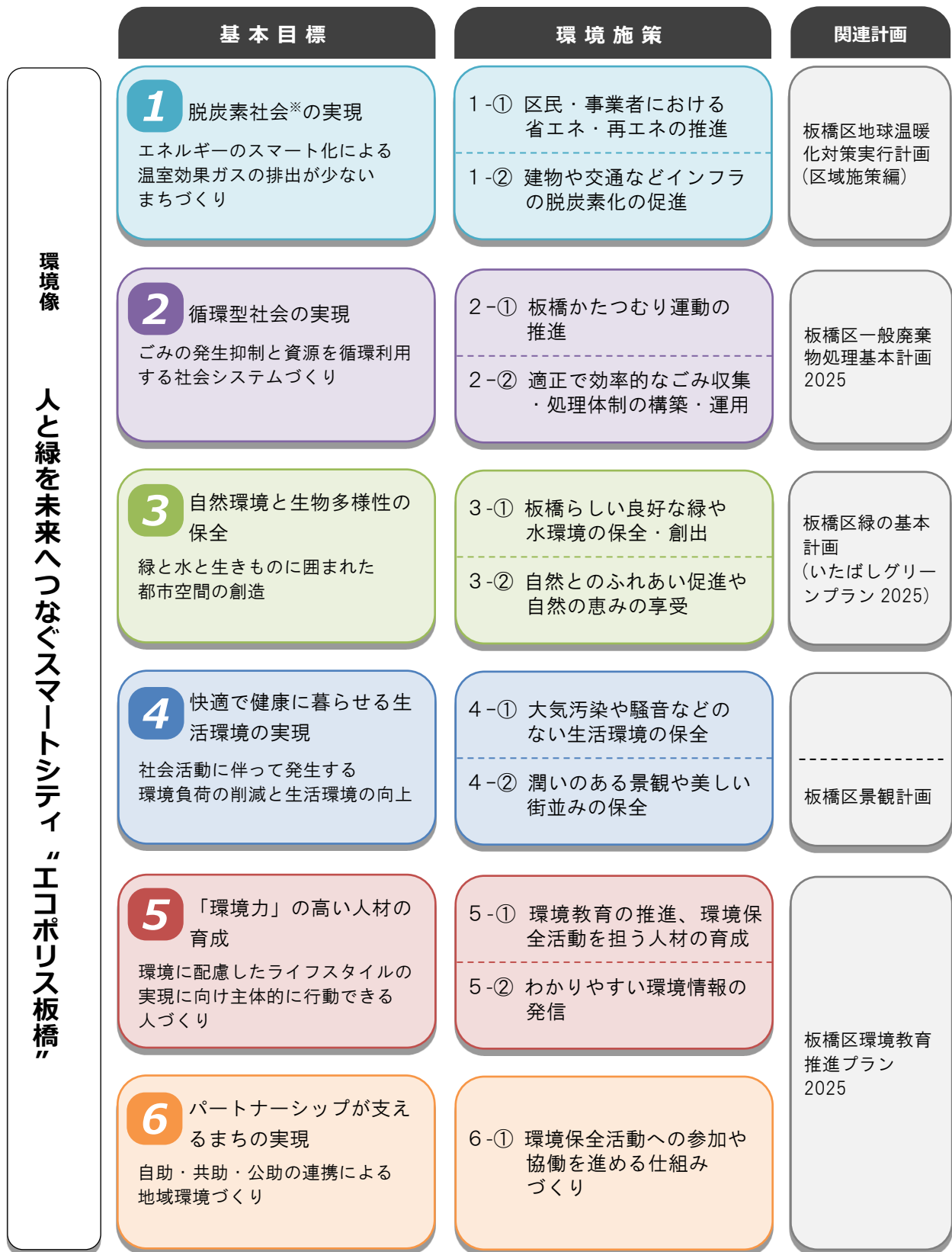


図1-1-2 「板橋区環境基本計画2025」の体系

※ 出典：板橋区環境基本計画2025（2016（平成28）年3月策定）
 ※ 環境基本計画2025策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」ですが、「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会」へと変更されたことに伴い、本白書では「低炭素」は「脱炭素」と読み替えることとします。

2 計画の推進と進行管理

(1) 進行管理の体制

「板橋区環境基本計画2025」（以下「現行計画」という。）を実効性のあるものとしていくため、計画の進行管理を行います。計画の進行管理は、学識経験者などで構成された区の付属機関である「板橋区資源環境審議会」及び庁内検討組織である「『エコポリス板橋』推進本部」により行われます。また、環境保全活動に関する区民や事業者への普及啓発や区との連絡調整のため、区民や事業者などによる「エコポリス板橋環境行動会議」と連携しながら計画を推進していきます。進行管理の体制と各組織の役割は以下のとおりです（図1-1-3）。

(2) 現行計画の進行管理

計画の進行管理を適切に行うためには、計画の達成度を評価するための指標の設定が重要となります。

現行計画では、主に6つの基本目標に対す

る達成状況を評価する「環境指標」と、環境施策の活動状況を把握する「活動指標」の2種類を設定しています。環境指標は、環境保全に資する取り組みを実施した結果、区民などにもたらされた影響を数値化したもので、原則としてアウトカム指標（成果指標）を用いています。一方、活動指標は、取り組みの具体的な活動量（「何をどの程度提供したか」など）を定量的に示したもので、原則としてアウトプット指標を用いています。また、どちらの指標にも、その数値の増減が良い方向に向かっているのか、又は悪い方向に向かっているのかを判断する基準として「めざす方向性」を示しています。（数値の増減で良し悪しを評価することができないものについては「－」で示しています。）現行計画では、これらの指標の数値変化などをもとにして進行管理を行っていきます。

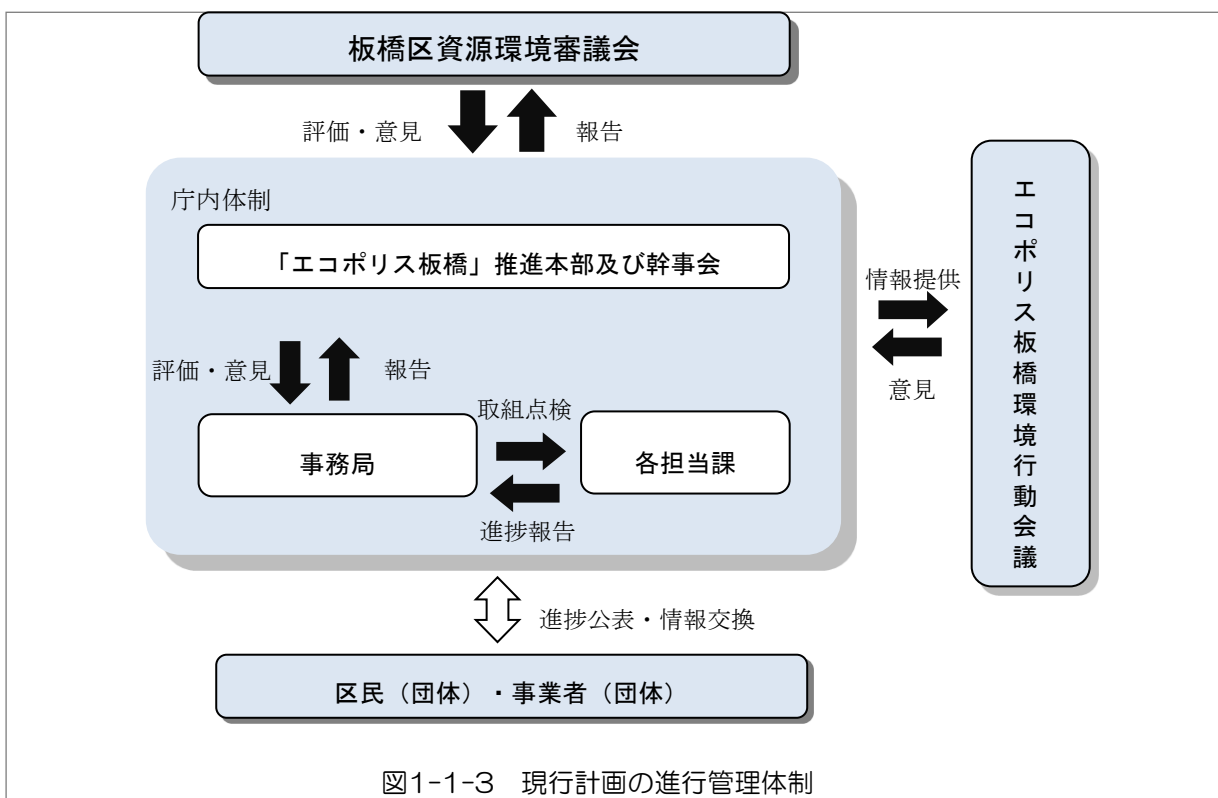


図1-1-3 現行計画の進行管理体制

① 「環境指標」による進捗管理

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和2年度	(参考) ※7 達成率 達成度	進捗率	進捗度 ※8
基本目標1：脱炭素社会の実現							
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↘	22,901 TJ※2	21,298TJ※3	214.0% A A	100% 以上	順調
区内温室効果ガス排出量	231.4万t-CO ₂ ※1	↘	220.1万t-CO ₂ ※2	204.8万t-CO ₂ ※3	235.4% A A	100% 以上	順調
基本目標2：循環型社会の実現							
区民一人当たりの一日の ごみ排出量	689 g※4	↘	598 g※5	658 g	34.1% C +	34.1%	漸進
リサイクル率	21.5 %※4	↗	28.0 %※5	22.5 %	80.4% B	15.4%	漸進
基本目標3：自然環境と生物多様性の保全							
区全体の植生被覆率	18.3 %	↗	21 %	—※6	—※6	—	—
公園率	5.9 %	↗	6.1 %	5.9 %	96.7% A	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75% 値)	0.7 mg/L	—	1.0 mg/L以下	0.9 mg/L	— A A	100% 以上	順調
白子川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	↘	2.0 mg/L以下	2.7 mg/L	61.1% C +	61.1%	順調
基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現							
微小粒子状物質(PM2.5)の基 準値Bレベル以上の日数	25 日	↘	23 日	3 日	1,100.0% A A	100% 以上	順調
騒音に係る環境基準の達成率	79 %	↗	85 %	81 %	95.3% A	33.3%	漸進
基本目標5：「環境力」の高い人材の育成							
人材育成に関わる環境講座 参加者数	199 人	↗	400 人	185 人	46.3% C	0%未満	停滞
外部人材を活用した環境学 習実施校(園)の割合	76.1 %	↗	100 %	36.0 %	36.0% C	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校 (園)の割合	74.4 %	↗	100 %	69.4 %	69.4% C	0%未満	停滞
エコ生活(アクション9)の 実施状況	75.0 %	↗	100 %	84.3 %	84.3% B	37.2%	漸進
基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現							
全区民参加型環境保全キャ ンペーン参加者数	25,674 人	↗	31,500 人	0 人	0.0% C	0%未満	停滞
エコポリスセンター事業へ のボランティア等参加者数	990 人	↗	1,300 人	279 人	21.5% C	0%未満	停滞
環境登録団体数	27 団体	↗	37 団体	35 団体	94.6% A	80.0%	順調
環境学習講師派遣人数	363 人	↗	500 人	164人	32.8% C	0%未満	停滞

※1：平成24年度 ※2：平成32年度（「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の目標年度）

※3：平成30年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より）

※4：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の基準年値（平成27年度）

※5：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の目標値（令和7年度）

※6：植生被覆率は5年ごとの調査（参考 令和元年度実績は18.1%）

- ※7：目標値に対する実績値の達成状況。A A（達成率100%超）、A（達成率90%～100%）、B（達成率70%～90%未満）、C+（達成率70%未満でも基準年値を上回る）、C（達成率70%未満で基準年値より悪化）、めざす方向性が↘の場合は進捗率と同値とした
- ※8：計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に、進捗率が100%以上になるものを「順調」、改善はしているものの100%に届かないものを「漸進」、0%以下になるものを「停滞」とした。令和2年度については、10か年計画の5年度目（一部を除く）であるため、進捗率が50%以上になるものを「順調」とした。なお、基本目標2については、「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の計画期間が平成30年度から始まる8年間であるため、進捗率は37.5%以上になるものを「順調」とした。）

○環境指標の進捗状況概要

基本目標1：脱炭素社会の実現

環境指標の「区内エネルギー消費量」及び「区内温室効果ガス排出量」は、共に「順調」に推移しました。東日本大震災以降における節電の取り組みの定着等により、エネルギー消費量の減少傾向が続いているほか、再生可能エネルギーによる発電量の増加等により、電力の二酸化炭素排出係数が緩やかに低下し、温室効果ガス排出量の減少につながりました。

なお、区では2021（令和3）年度に「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の策定に続いて、2021（令和3）年度中には「（仮称）板橋区地球温暖化対策実行計画（事務事業編）2025」を策定する予定であり、更なる区の脱炭素化へ向けた取り組みを推進していきます。

（関連ページ：P12）

基本目標2：循環型社会の実現

環境指標の「区民一人当たりのお一日のごみ排出量」は、近年減少傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、家庭での巣ごもりや食品などの消費が増えた影響で前年度の排出量が増え「漸進」となりました。また「リサイクル率」は、基準年値よりやや数値を改善し「漸進」となりました。「リサイクル率」も同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭で過ごす時間が増え、分母となる家庭から排出されるごみが増えた一方

で、インターネットショッピングなどの需要拡大が進み、配達後に出る梱包材の段ボールの排出量が増えるなど分子となる要因の数値が改善したためと考えられます。

「区民一人当たりのお一日のごみ排出量」及び「リサイクル率」は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時的なごみの増加が見受けられました。今後も推移を見守っていくとともに、2021（令和3）年度からは、いたばしNo.1実現プラン2025の計画事業である「プラスチックごみの再資源化の推進」をはじめ、プラスチック使用の抑制、食品ロスに対する啓発等についても取り組みを進め、ごみ排出量の削減、資源化量の増加を目指します。

（関連ページ：P28）

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

環境指標の「公園率」は、農業園（赤塚植物園の増設）が完了しましたが、前年度から数値に変化はありませんでした。「生物化学的酸素要求量（BOD75%値）」については、石神井川、白子川ともに「順調」に推移し、石神井川については目標値も下回ることができました。

「公園率」については、本計画期間内に予定されていた（仮称）板橋区史跡公園の開園が2029（令和11）年度に延期となり当面数値の改善が困難な状況ですが、将来的な公園の拡張や整備に向けて、引き続き計画を進めていきます。

（関連ページ：P40）

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

環境指標の「微小粒子状物質(PM2.5)の基準値Bレベル以上の日数」は、2014（平成26）年度以降、年間を通じた測定結果が得られ、基準値Bレベル以上の日数は前年に引き続き低値で「順調」に推移しており、2020（令和2）年度は3日のみとなりました。理由としては、工場等のばい煙発生施設の規制や自動車排気ガス規制等が考えられます。また、「騒音に係る環境基準の進捗率」は目標には届いていないものの、近年の自動車性能の向上及び低騒音型の路面舗装の普及等が進み改善が見受けられます。「騒音に係る環境基準の達成率」については引き続き道路の騒音調査を行い、調査結果を道路管理者に情報提供し改善を促していきます。

（関連ページ：P53）

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

環境指標の「人材育成に関わる環境講座参加者数」など3つの項目で「停滞」となり、「エコ生活（エコアクション9）の実施状況」については前年度より僅かながら数値が改善し「漸進」の評価となりました。

「外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合」については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため外部講師による学習活動を制限した学校・園が多く活用率が低下しました。2020（令和2）年度からはエコポリスセンターの出前授業の一部がWEB対応になっていることから、今後はより活用してもらえるよう周知していきます。

（関連ページ：P76）

基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現

環境指標の「環境登録団体数」は「順調」に推移しました。一方、「全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数」等の指標については全て「停滞」の評価となりました。

「全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響で全てのキャンペーンが中止となりました。今後はキャンペーンのあり方を見直すとともに、打ち水キャンペーンについては今後も集団での実施は行わず、個人や家族での実施を呼びかける形で継続していきます。

（関連ページ：P85）

②活動指標による進行管理

2020（令和2）年度における活動指標の実績と進捗状況は以下のとおりである。なお、「進捗度」については、基準年値に対して実績値が5%以上増加（「めざす方向性」が下

向き矢印の場合は減少）したものを「進展」、5%以上減少（同増加）したものを「後退」、増減が5%未満のものを「横ばい」としました。

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和元年度	実績値 令和2年度	進捗度
基本目標1					
▶環境施策1-①：区民・事業者における省エネ・再エネの推進					
区内の住宅用太陽光発電システム導入発電容量	4,611 kW	↗	6,043kW	6,153kW	進展
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↗	167 施設	162 施設	後退
環境マネジメントシステム新規構築事業所数	14 事業所	↗	4 事業所	9 事業所	後退
新エネルギー・省エネルギー機器設置補助件数	347 件	↗	319 件	174 件	後退
▶環境施策1-②：建物や交通などインフラの低炭素化の促進					
「板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針」に基づく省エネ建築物受付件数	57 件	↗	48 件	42 件	後退
街灯の更新	— 基	↗	2,768 基	3,320 基	—
区役所で使用している自動車の低公害車率	74 %	↗	73 %	72 %	横ばい
自転車道整備延長距離（累計）	4,670m	↗	4,881m	5,028m	進展
基本目標2					
▶環境施策2-①：板橋かたつむり運動の推進					
ごみ減量に関する出前講座の実施回数	43 回	↗	43 回	0回	後退
資源回収品目数	11 品目	↗	11 品目	11 品目	横ばい
リサイクル推進員研修会参加者数	433 人	↗	372 人	283 人	後退
小型家電の資源売却量 ^{※1}	544,570 kg	↗	541,152 kg	563,048 kg	横ばい
いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数	— 事業所	↗	— ^{※2}	— ^{※2}	—
▶環境施策2-②：適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用					
家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）	110,742 t	↘	108,331 t	110,536 t	横ばい
事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）	29,520 t	↘	30,911 t	27,544 t	進展
資源の回収量	13,869 t	—	13,238 t	14,421 t	—
高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数	783 件	↗	853 件	914 件	進展
集団回収登録団体数	883 団体	↗	908 団体	901 団体	横ばい
基本目標3					
▶環境施策3-①：板橋らしい良好な緑や水環境の保全・創出					
緑化指導に基づく緑化箇所数	90 件	↗	62 件	94 件	横ばい
緑化指導に基づく緑化面積	59,617 m ²	↗	11,010 m ²	15,020 m ²	後退
地域がつくる公園制度導入公園数	27 公園	↗	28 公園	27 公園	横ばい
花づくり活動登録グループ数	83グループ	↗	82 グループ	81 グループ	横ばい
保存樹木指定本数	1,842 本	↗	1,781 本	1,765 本	横ばい
雨水流出抑制量	4,119 m ³	↗	3,959 m ³ ^{※3}	3,379 m ³ ^{※4}	後退

※1：小型家電の資源売却については、金属価格の下落による逆有償（排出側が処理側に代金を支払うこと）が発生し、売却が困難な状態となっているため、基準年値・実績値ともに、「資源回収量」を掲載した。

※2：平成30年3月末にて事業終了 ※3：平成30年度実績値 ※4：令和元年度実績値

指標名		基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和元年度	実績値 令和2年度	進捗度
基本目標3	▶環境施策3-②：自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受					
	グリーンフェスタ参加者数	8,073 人	↗	5,109 人	0 人	後退
	緑のガイドツアー参加者数	102 人	↗	106 人	45 人	後退
	熱帯環境植物館来館者数	103,925 人	↗	114,666 人	35,861 人	後退
	エコポリスセンター「環境観察員」登録者数	57 人	↗	59 人	64 人	進展
	区民農園応募者数	3,144 世帯	↗	2,498 世帯	2,691 世帯	後退
基本目標4	▶環境施策4-①：大気汚染や騒音などのない生活環境の保全					
	公害苦情件数	251 件	↘	233 件	242 件	横ばい
	公害相談件数	2,182 件	—	2,762 件	2,537 件	—
	公害関係法令に基づく改善指導件数	201 件	—	153 件	181 件	—
	「板橋区大気情報公開システム」アクセス件数	458,533 件	↗	237,311 件	310,081 件	後退
	環境調査に関する情報のツイッター発信数	25 件	↗	155 件	137 件	進展
	▶環境施策4-②：潤いのある景観や美しい街並みの保全					
	景観形成重点地区指定数	4 地区	↗	4 地区	4 地区	横ばい
	「板橋クリーン作戦」参加者数	18,721 人	—	19,583 人	0 人	—
	「板橋クリーン作戦」におけるごみ回収量	6,600 袋	—	6,449 袋	0 袋	—
路上禁煙地区(8地区)内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数	1,300 本/月※5	↘	899 本/月	722 本/月	進展	
基本目標5	▶環境施策5-①：環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成					
	環境講座・教室開催回数	677 回	↗	579 回	244 回	後退
	環境講座参加者数（人材育成に関わる講座を除く）	22,898 人	↗	20,316人	5,753人	後退
	環境学習講師派遣人数	363 人	↗	290 人	164 人	後退
	環境学習施設の入館者数	270,195 人	↗	315,947 人	162,971人	後退
	環境講座受講前後の知識・考え方の変化	63 %※6	↗	77.1 %	88.1 %	進展
	▶環境施策5-②：わかりやすい環境情報の発信					
	区から発信する環境情報の更新回数	356 件	↗	965 件	708 件	進展
	環境イベント等開催回数	244 回	↗	199 回	60 回	後退
	環境イベント等参加者数	96,949 人	↗	44,877 人	5,974 人	後退
基本目標6	▶環境施策6-①：環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり					
	ボランティアなどの協力を受入れたエコポリスセンター事業数	183 件	↗	187 件	91 件	後退
	自主講座支援回数	2 回	↗	2 回	1 回	後退
	喫煙マナーアップ推進員人数	157 人	↗	93 人	100 人	後退
	集団回収登録団体数【再掲】	883 団体	↗	908 団体	901 団体	横ばい
	地域がつくる公園制度導入公園数【再掲】	27 公園	↗	28 公園	27 公園	横ばい
花づくり活動登録グループ数【再掲】	83グループ	↗	82 グループ	81 グループ	横ばい	

※5：平成27年4月～平成28年1月までの10か月間の平均値 ※6：平成28年度実績値

○活動指標の主な成果

基本目標1：脱炭素社会の実現

2020（令和2）年度で事業終了となる「住宅等の新エネルギー・省エネルギー機器の導入補助」については、新型コロナウイルス感染症の影響により住宅設備等の消費が落ち込み、申請件数が伸び悩みました。なお、2021（令和3）年度から、機器の導入補助を廃止するとともに、「いたばし環境アクションポイント事業」を新たに創設し、区民や事業者の省エネルギー活動を促す取り組みに事業を見直しています。

基本目標2：循環型社会の実現

「事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）」は計画期間中継続して基準年値を上回って推移してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、民間事業者などの活動が縮小し前年度に比べ10%程度減り初めて基準年値を下回りました。「高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数」については安定的に基準年値を上回って推移しています。

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

2020（令和2）年度は、「板橋区緑化の推進に関する条例」に基づく緑化指導制度による緑化完了の届出が94件あり、高

木植栽1,831本、中木植栽5,550本等の実績がありました。また同制度により、地上部の緑化面積は14,109㎡、屋上の緑化面積は911㎡増加しました。

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

「路上禁煙地区（8地区）内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数」については、基準年値を大きく下回って推移しており、新型コロナウイルス感染対策による外出自粛の影響も考えられますが、区内における一定の喫煙者のマナーの向上が見受けられます。

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

「環境講座受講前後の知識・考え方の変化」については着実に上昇傾向で推移しています。また、区から発信する環境情報の更新回数もTwitter等を積極的に活用しており基準年値を大きく上回りました。

基本目標6：「パートナーシップ」が支えるまちの実現

「ボランティアなどの協力を受け入れたエコポリスセンター事業数」については、新型コロナウイルス感染症の影響で参加者数が減少しましたが、今後もボランティアの活動機会を提供するとともに、「エコみらい塾」等の指導者養成講座でボランティアの人材育成・確保を図っていきます。

3 板橋区の環境とSDGs

2015（平成27）年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた2030（令和12）年を年限とする国際目標が持続可能な開発目標（SDGs）（※P98）です。持続可能な世界

を実現するための17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

板橋区で取り組む環境関連事業においても、SDGsの目標達成に寄与しており、その一例をご紹介します。



日光市産の木材を使用した大階段
（板橋第一小学校）



板橋区と日光市で交わされた「みどりと文化の交流協定」に基づき、区立学校施設整備に係る木材資材に日光市産のスギやヒノキなどを使用することで、地域の「経済」に貢献するとともに、木の循環利用や環境問題などを学習するための「環境」教育の場となり、さらにCO₂排出削減にも大きく寄与しています。（関連P43「板橋区の森」）



熱帯環境植物館



熱帯環境植物館は清掃工場の余熱を利用した省エネルギー型施設で、東南アジアの熱帯雨林や環境問題に関する普及啓発を図っており、マレーシア・ペナン州立植物園との交流も重ねています。また、区立中学生のマレーシア派遣事業により国際「社会」との人的交流も行われ、マレーシアとの交流を通して、「社会」「環境」「教育」の各分野が相互に連携しながら、SDGsの目標達成に向けて相乗効果を生み出していると言えます。

（関連P51「熱帯環境植物館」）



緑のカーテンを見学する園児



公共施設の緑のカーテン



板橋区で全国に先駆けて始まった「緑のカーテン」は、小中学校をはじめとして「環境」教育の「生きた教材」として活用され、また、冷房使用抑制やヒートアイランド現象の緩和に貢献しています。（関連P13「緑のカーテン」）



板橋こども動物園の草屋根

2020（令和2）年12月にリニューアルオープンした「板橋こども動物園（東板橋公園内）」では、動物とふれあうことで「生命の尊さ」や「ヒーリング効果」を大切にし、子ども、障がい者、高齢者など様々な方の健康と福祉に貢献します。さらに馬糞の堆肥化により循環型社会に寄与し、草屋根や壁面緑化により環境負荷の低減および気候変動への影響緩和をめざします。

（関連P48「板橋こども動物園」）



2020（令和2）年5月に「赤塚植物園」に増設された「農業園」は、「観て・育てて・収穫する」体験型農業園です。主に児童・園児たちが農業体験や自然体験をすることで農業教育・環境教育を行い、さらに収穫した野菜をつかって本園で調理することで農作物への理解を深め、食育の推進につなげています。

（関連P48「赤塚植物園」）



赤塚植物園・農業園



電気自動車のカーシェアリング



2020年12月から、区有地を事業者に貸し出し、電気自動車（EV）のシェアリング事業を実施しています。庁有車を1台削減し、代替車としてEVを借り上げることで、環境負荷を低減するとともに、区民・事業者にもEVを利用する機会を提供しています。（関連P26「区有地を活用した電気自動車のカーシェアリング事業」）

板橋区環境基本計画2025でめざす6つの基本目標を達成し、持続可能なまちを実現するためには、これらのうちのどれか一つを追求するのではなく、全てをバランス良く実施していく必要があります。

本書第2部以降で紹介する取り組みは、それぞれが単に一つの「環境」問題を克服するためだけのものではなく、「経済」「教育」「社会」などの幅広い分野とも密接に関わり、相乗効果を生み出す可能性を含んでいます。

基本目標実現に向けて、“環境問題を克服する”ことが、同時に“地域の活性化”“環境教育の充実”“協働による社会活動推進”などにもつながっていくことを各主体が認識し、相互に連携しながら取り組みを推進することが重要となります。

このように、板橋区環境基本計画2025における基本目標実現に向けたアプローチは、SDGsとの親和性が高く、SDGsの目標達成に寄与していると言えます。